
神実の塔

日輪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神実の塔

【Nコード】

N4008Z

【作者名】

日輪

【あらすじ】

平和な村の平和な祭に突如現れた謎の男

平和な村は謎の虫に襲われ壊滅してしまった。

だが、壊滅した村で一人生き残った青年が居た。
その名は「ナナシ」彼は聖剣・亜神を手に蟲を切り裂き
村にそびえる塔へと進む・・・

Openingは壊れた祭と共に

20XX年

高い山々に囲まれた村が在った。

当然山に囲まれているだけあつて不便である。新参者、更に物好きさえも近づくことしなかった。

1週間前この村で祭があつた。

100人も村人が村中をバッファローのように行進したり、みんな次の日動けなくなるくらい食っちゃ寝食ちゃ寝する楽しい祭である。（村人は別名めちやくちゃ祭と呼んでいる。）

そう、この村で唯一特別な日だが今年は

恐ろしいほど特別だった。

その一部始終を運のいい風邪引きの青年がみていた。

クソッなんてこった・・・今日は年に一回の祭りだったのに風邪ひいちまったぜ。窓から見るだけってのはきついなまったく。ん？何だ？

黒いコートを着た男が青年の目に止まった。

（あんなやつこの村に居たっけ？）

男は村人の中へと入っていくと持っていたアタッシュケースのような物を取り出した。

（なぜこんな所であんな物を？）

男はアタツシケースを開けた。中には瓶が入っていた

（なんの瓶だ？・・・！？）

中身は少年を騒然とさせる物だった。

そこには瓶の中にうごめく大量の虫の姿があった。さすがにこれには村人もざわついている。

男は瓶の蓋を開けたすると中の虫が村人めがけて一斉に飛んでいく。

うわあああああ！

きやあああああ！

虫は村人たちの頭に直撃し、そのまま入り込んだ。

（きもちわりい・・・）

するとなんだか村人たちの様子がおかしい。目は血走り今にも人を殺しそうだ。

（もうやばいなんてもんじゃねえ・・・）

そう思った瞬間いきなり村人たちが暴れ出し殺し合いを始めた。

（もうこの村は終わりだ・・・）

ドサッ

青年は恐怖に臆したのかそのまま気を失ってしまった。

「クククツ・・・ヒヤツハハハハハハアアア！俺の野望がついに叶うときが来た！」

男は高らかに叫び終わると闇の中に消えた。

殺し合いも終わった。

そして物語が始まった。

01 出会い

「ZZZZZZZZZZ・・・」

晴れた日曜日、静かに眠るこの男その名はナナシ。だがその眠りは三つの音によって打ち砕かれた。

まず最初に、「バラバラバラバラバラバラバラ」

次に、「ぎゃあああああああああ！」

そして最後に、「ズドオオオオオオオオオオオオオオオ」

ナナシは音の方へと向かった。

そこには小型のヘリが墜落していた。ヘリの近くに行くと操縦士らしき者の声が聞こえた。

「あぶねえあぶねえこの「墜落した時用の装備」^{アイマ}着ててよかったぜ」

ナナシは操縦していた者を見つけると荒々しく言った

「おいてめえ、こんな山の中の不便な村までヘリで来て俺の眠りを妨げるとはいいい度胸だな・・・」

「ちょっとまって！ちがうって！俺はお前の眠りを妨げるためにここに来たんじゃないよ！」

「問答無用！てめえが俺の眠りを妨げたのには変わりねえからな」

そう言うとなナシは背中に背負ってあつた赤く光る剣を手に取り男に向けた

「これは聖剣・亜真あしんと言つてな今お前をぶつた切るのに最適な剣だ・
・・」

「ふふ・・俺の装備アイマーを舐めるなよ!」

「どういつ事だ?」

「俺の装備は「対・剣用・装備アイマー」はもちろん「対・銃用・装備アイマー」
「対・戦車用・装備アイマー」「対・毒を持った生物用・装備アイマー」「タスマニア
デビル保護用・装備アイマー」など約20もの装備を着ているのさ!」

「だが俺の剣の前には無意味だ。」

そう言うとなナシは男の背後に回り背中に背負ってあつた物体を斬つた。

「ぐああああ!俺のジェットがああああ!」

「ジェット?そんな便利な物があるのにヘリで突撃するとは・・
やはりお前は斬らなきゃいけないな!」

「いやこれはただたんにジェットの燃料がもったいなかったっていうか、ヘリを偶然見つけて乗ったら壊れちゃったっていうか・・」

「いいわけはいいからさっさと俺に斬られろ」

「まあまあ！落ち着いて！ここは二人とも会ったばかりなんだしお互いのことについて語り合おうぜ！俺の名前はジャンク。この世に生を受けて20年、重ね着でしか怒られた事がない男だ！よろしくな！」

「俺の名前はナナシ。これから俺の眠りを妨げたお前をぶった斬る男だ！短い間だけでもよろしくな！」

「・・・逃げ場なしか。」

「そう言うことだ。では・・・斬る！」

ジリリリリリイイイイ！

ナナシが剣を振り下ろそうとしたそのとき、どこからかベルの警報が鳴った。

「いけねえ！奴らが来る！」

「よっしゃ！セーフ！」

「馬鹿野郎！お前隠れないと死ぬぞ！？」

「一体何が来るんだ？」

「
・
・
・
蟲
だ。
」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4008z/>

神実の塔

2011年12月27日21時52分発行